

自己評価および外部評価結果(第1ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し、常に意識しながら統一したケアを実践している。新入社員にも研修を行い指導している。	事業所の理念を毎日職員全員で唱和したり、共有スペースに掲示して普段から理念の意識付けを行っている。接遇委員会を設けており、内部研修や外部研修で得た内容を持ち帰り改めて内部研修するなどして職員へ指導し、実践へと繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新聞を発行し、回覧板などでホームの様子を紹介している。保育園・学校・地域行事にも利用者と共に参加している。交番にも毎月カレンダーを持って訪問している。	地元の町内会には、秋祭りでお神輿に来てもらったり、地蔵盆へ出掛ければ昔の馴染みの方と話をし、良い楽しみの場となっている。今年の小学校の夏祭りでは、パンの販売や介護相談コーナーを設けたいとの事で地域貢献にも取り組んでいく姿勢がある。保育園へは発表会や焼き芋パーティーなどに呼ばれ交流を深めている。地域の交番へ利用者とカレンダーを持って行き交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族地域交流会や運営推進会議の中で認知症の勉強会や支援方法の相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開き、利用者、利用者家族、地域住民、行政の方を迎え、サービスの取り組みや活動報告を行いご意見・要望を伺いサービスの向上に努めている。	利用者、家族、町内会長、ボランティアの方、地域包括センター職員等に出席いただき、2カ月に1回開催している。家族は毎回来ていただく人を替えさせてもらいながら、事業所への関心を高めてもらう様にしている。これまで頂いた意見を基にAED設置や、地蔵盆参加、秋祭りのお神輿訪問が実現出来ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの方に参加していただき、サービスの取り組みを伝え情報交換を行い意見をいただき連携を図っている。	市の担当者へは毎回運営推進会議参加の案内を出しているが、今のところ参加は無い。昨年実地指導が有り、書類等でご指摘頂いた。地域包括支援センターとは居室の空き状況をお伝えしたり、感染症や詐欺の情報を頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回委員会を開き現状報告、見直し、意見交換を行い、拘束をしない支援に向け努力している。スピーチロックの勉強会を行い言葉かけにも気を付けている。	身体拘束防止委員会を設け、月に1度開催し意見交換を行っている。スピーチロックの勉強会では「だめよ！」「まって！」「なにしてる！」など、言動による行動の静止が拘束に繋がる事等、職員ひとり一人の言葉の大切さ、再認識の為にも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回委員会を開き虐待防止に取り組んでいる。自己評価後の面談を行い話しをすることでストレスや悩みがないか把握するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修委員会主催の元、毎月のユニット会議で勉強会を行っている。また、いつでも見ることができるようにファイルを作成して活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとり、不安や疑問点にお答えし、利用料金、重度化や看取り、医療連携の実施など詳しく説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族地域交流会やご家族の面会時、日々の会話の中でも思いや要望など言ってもらえるような関係作り留意し運営に反映できるようにしている。	家族地域交流会を年に3回開き、陶芸教室、便秘予防体操や近隣のお寺の住職さんの説法を聞いたりした。そのお寺さんへは紫陽花を見に行ったりもして交流を深めている。また、面会時にもお声掛けして話をする事で、要望や意見を聞く事が出来る様に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議において活発な意見交換を行い、より良い支援ができるよう努めている。また、個人面談を行い、意見・提案は検討し運営に取り入れている。	ユニット会議は和やかな雰囲気、意見交換ができている。管理者は職員が何でも話せる雰囲気を持っており、面談でも職員がストレスを溜めない様に努めている。職員同士のチームワークが良く、利用者それぞれに対し細やかな配慮や支援に取り組んでいる。	職員の其々の発想を大切に、伸ばし取り上げているので、職員も余裕のある気持で働けている。お互いに協力し合っている様子は素晴らしく、これからも続けて頂きたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、思いや悩みなど十分に聞き取り、ストレスをためない環境作りに努めている。また、日頃より何でも言い合える関係作りを築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加し、勉強会を行っている。新人職員には、1カ月間マンツーマン体制をとり、ケア技術だけではなく利用者との関わり方についても指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や他グループホームとの交流、情報交換を行い、サービスの向上に役立つことがあれば取り入れている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況の把握と本人の心身の状態、思いに向き合い安心して新しい生活に慣れていただくよう職員との信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や思いを受け止め何を求めているのかを考え理解し対応することで、良好な信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族のお話を聞き、思いを受け止め、状況確認しながら、最善のサービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、人生の大先輩であるという考えの元に、共に支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご本人の日頃の様子を伝え状態に変化があれば早急に連絡し相談しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事・他施設の催し物に参加し馴染みの人と会える機会を設けている。昔の職場の方との交流が途切れないよう連絡し誕生日会や季節行事に参加していただいている。	前の職場の人の訪問があったり、近所の馴染み友達の訪問がある。また、地域の行事に参加して話す機会が多い。職員はひとり一人の見守りや利用者の要望などを把握し、日々の支援に努めている。年賀状を書いてもらいやり取りをして頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の心身の状態・気分・感情で日々変化することもあるが、一緒にお茶を飲んだり手作業を楽しんでいただき、利用者同士の関係がうまくいくよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる場合、今までの生活が継続できるように情報提供を行っている。ご家族にその後の様子を手紙や電話でお尋ねしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で会話や表情、態度から本人の思いを把握できるよう努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族から情報を得たり、みんなで話し合っている。	認知症の勉強で理解を深めたり、接遇研修で声かけ接客の勉強もしている。普段から共有空間や居室で話をゆっくり聞くなど、ひとり一人の話しやすい環境を職員が把握して聞くようにしている。また、知り得た情報を記録に残し、職員間で共有している為、その人らしさの環境へも配慮し接する事が出来ている。	男性利用者を苦手とする女性利用者にはテーブル席の並びに配慮したり、共用空間で話せない利用者には居室でお話を聞いたり、楽しみにしていた植木の花が咲かなかつたら絵の上手な職員がその花の絵を描き飾ったりと、小さな声も汲み取り支援に努めている姿勢が素晴らしいです。これからは無理のないところで続けて頂けたらと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中でコミュニケーションを取りながら聞き出していけるように努めている。ご家族からも昔の様子をお聞きしながら、これまでの人生の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズム・生活習慣・精神面・体調の変化等の把握を行い介護日誌に記録し、職員間で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族に思いや意見、要望を聞きユニット会議や担当者会議で話し合い意向に添った介護計画の作成に努めている。	職員でモニタリングをした後、ご家族にも参加頂き必ず担当者会議を開いて介護計画を作成している。参加が困難なご家族には訪問時や電話でお尋ねし、意見を伺っている。計画作成にあたり、その方のニーズを把握出来る様に努め、計画へ反映させる様にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状態の変化は個々のケア記録に記入し、職員間の情報共有を行い、介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や家族の意向に配慮しながら、必要に応じて可能な限り出来ることは取り入れるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	誕生日会や行事では、地域のボランティアの方が来て下さり、月に一回の訪問理容サービス、お化粧ボランティア、交番との交流があり、いざという時に頼れる関係作りを努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、ご希望の病院をお尋ねしている。事業所の協力医やかかりつけ医での適切な医療を受けられる体制が整っている。	入居時に家族や利用者の希望を踏まえながら、主治医を決めている。事業所の協力医は24時間体制で対応していて急変時でも必要であれば往診もしてもらっている。週1回の訪問歯科が有り、利用者全員診てもらっていて毎日の口腔ケアも支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態に変化や気付いた事があればすぐに看護師に報告し、医師に連絡・報告し早急に適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、添書にて日々の様子・体調の変化を報告し、早い時期にお見舞いに伺い入院中の様子を把握し、ご家族には電話にて様子を聞き速やかに退院できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に伴う意思確認、同意書を本人・家族の意向を基に話し合い作成している。終末期のケアについても、ご家族・医師・看護師・介護職が話し合いを行い、安心して納得したケアが受けられるように随時確認を取りながら取り組んでいる。	看取りを実施している。役割等細かに書かれた看取り指針が有り、入居時に説明し同意を得る様にしている。実際に行った看取りでは、主治医との連携に努め、ご家族に泊まって頂き一緒に時間を大切に過ごしてもらった。事例後にはその際に得た経験や葛藤を記録し反省にしている。また、看護師による看取りの勉強会も年1回行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時には協力医に早急に連絡し指示を仰いでいる。緊急時のマニュアルを作成し救命法やAED指導の実技勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練には町内会・消防団の方にも参加していただき避難訓練を行っている。夜間、地震・水害を想定した訓練も行っている。	安全管理委員会を設け、訓練を年間行事に含め年2～3回行っている。そのうち必ず1回は消防署職員に立会いをお願いし、非常ベル使用・通報・避難と一連の訓練をしている。訓練の際、町内会長・地域の方に避難時の見守りをお願いし協力してもらっている。水害対策や、備蓄策も検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい姿を大切にしながら、一人ひとりに合わせたケアを心がけている。接遇委員会を設置し、声かけ・接遇マナーについての勉強会を実施し、職員全体で取り組んでいる。	接遇委員会を設置して年に1回研修を行っている。電話対応や声かけの仕方、マナーの勉強をすることにより、職員の対応の仕方も違って来た。個々の利用者が自分らしく過ごせる為の環境に配慮し、支援できるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、本人が答えやすく選びやすいような働きかけをしている。その日、着る服も選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その日の体調や様子を見ながら、本人の要望を尋ねたり相談して、できるだけ希望に添って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問散髪やメイクボランティアの方によるメイク、マニキュアもしてもらっており、清潔を保ち、おしゃれも楽しんでいただけるよう計画している。服装もその人らしいスタイルが保てるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたいメニューをお尋ねし、希望食としてメニューに取り入れている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで食事ができるように雰囲気作りも大切にしている。	ユニット全体の介護度の変化により主なメニュー決めや食材を外部へ委託となったが、出来ることがあれば手伝ってもらいながら、匂いや音によって食事に対する期待感を持つことが出来ている。2か月に1回は希望食メニューの日が有り、鍋や、押し寿司等をした。また職員とともに楽しく食事をして家庭的な雰囲気作りにも努めている。	利用者と一緒におやつや梅ジュース、ラッキョウ漬けを作ったり、また男性利用者の希望に添い時折ノンアルコールビールを嗜んだりと食に対する楽しみを支援できている。これからも楽しめる工夫を続けていただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調を一日の摂取量を把握している。その方の状態に合わせ、おかゆ、キザミ食、トロミを付け食べやすく提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声かけにて口腔ケアをしていただき清潔が保てるようにしている。また、訪問歯科の衛生士による口腔ケア指導も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄間隔の把握をし、トイレ誘導の声かけを行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。	其々の利用者の排泄のパターンを把握しており、時間を見て促すようにしている。夜には部屋にお茶のペットボトルを配備して、水分の補給も声かけ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を見ながら、十分な水分摂取を心がけている。便秘気味の方には、朝食の前に冷たい飲み物を飲んでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの生活リズム・気分・体調に合わせて、無理をせず本人のペースに合わせて声かけを行い、ゆったりと一人ずつ入浴していただいている。	基本週2回以上の入浴。また毎日入りたい方にも対応している。入浴の好き嫌いもあり、個々の性格を見極めながら、なるべく心地良く入れる様に声を掛け支援している。入浴専属職員がいる時は朝風呂を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムをつけるようにしている。体調に合わせて個別に休憩していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方ファイルにより、職員全体が一人ひとりの薬の効能、副作用を理解している。服薬時には手渡しし、飲み込み確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や会話からその人に合ったお手伝いをお願いし、負担にならないよう配慮している。梅ジュース・ラッキョウ漬け・干し柿など教えてもらいながら作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体的に重度化しており、全員での外出は困難であるが、買い物や外食、散歩など家族とも協力しながら個別支援に努めている。	少人数や個々の外出になることが多く、ご家族にも手伝ってもらいながら支援している。行事委員のもと、お花見、秋祭り、お雛様見物、車椅子散歩等、全ての利用者がなんらかの散歩や外出ができるように支援している。他ユニットとお花の水やり当番や、スイカの栽培、事業所側の自販機へ行き自分で買ってもらうたりもしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望により、外出時には財布を所持し、欲しい物を選び、自分で支払いができるよう支援している。また、近くの自動販売機でジュースを買っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて日常的に家族・姉妹・友人に電話や手紙を出せるようにしている。年賀状は全員が出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには利用者の手作り作品、行事の写真などを飾っている。ソファークォーナーには生け花のお得意な方にお花を生けていただいている。	基本的には業務の一環で清掃、消毒をしている。職員の利用者を思う気持ちから、職員が自主的に環境整備、共有空間への配慮を考え壁絵や生け花等で季節感をもたせたりと、利用者の気持ちに添う支援ができています。また老朽化してきている空調の取り換えも行っている。	空気のようにいつも常にテレビがついている状態というのはどんなものだろうか。観たい時だけにする等必要性も含め話し合いながら支援してほしい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファを利用してもらったり、テーブルやイスの配置に考慮して、落ち着いて気の合う人達が楽しめるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の写真・手芸作品を持ち込んでいただき、居心地の良い温かい雰囲気作りに努めている。	入居時に利用者やご家族と話し合い、以前から使用していたものを持参してもらっている。本人との対話の中でレイアウトや仕様を考えており、希望に応じ畳を敷いて寛いでもらっている。誕生日の時の写真や、今までに作った手芸の品々、窓の外には専用の棚を職員に作ってもらい植木鉢を置いてみたりとひとり一人に応じた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状況に合わせ安全に生活できるように職員同士話し合いながら工夫したり物の配置に注意している。		